

河川の連携・地域をつなぐ明日への水 思川開発

思川だより

独立行政法人水資源機構 思川開発建設所



平成18年度上半期業務内容をお知らせします

思川開発建設所では、南摩ダム及び導水路関連施設を建設するため、様々な調査を行っております。調査実施にあたっては、地域の皆様のご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。ここで、平成18年度上半期に行った主な調査業務についてご紹介します。



(1) 地質調査

鹿沼市引田地区において地質調査を行いました。当地点は、大芦川取水・放流工建設予定地点であり、大芦川から取水した水を地下約30m付近を通過する導水路トンネルに取り入れるための立坑の建設が予定されています。

調査は、地層・地質の状況を調べるため、地質サンプルを採取するボーリング調査を行うとともに、ボーリング孔での地下水調査等を併せて実施しました。

今後、調査データをもとに導水路トンネルの構造、施工方法等の検討を行ってまいります。

(2) 魚種調査

平成18年5月から、南摩川、大芦川、思川及び黒川において、どのような種類の魚が生息しているのか調査を実施しています。調査内容は各河川毎にポイントを決めて、月1回、

投網を用いて魚を捕獲し、魚種、捕獲数、体長などを調査した上で、放流するというものです。

調査結果は、アユ、ウグイ、カワムツ、カジカ、オイカワが多数確認できたほか、ヤマメやシマドジョウ等も確認できました。下半期も引き続き、調査を実施して参ります。

(3) 環境調査

平成5年度に環境影響評価を実施した以降も、環境保全対策を具体化していくために様々な環境調査を実施しています。

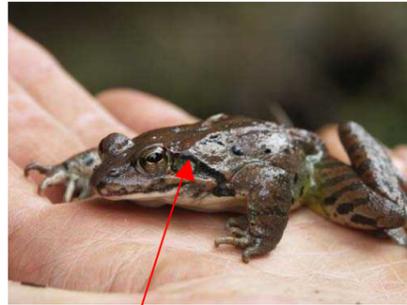
今年度は、工事やダムなどの施設ができることによる環境への影響を予測するために、事業実施区域周辺や下流河川の動植物調査のほか、現況の騒音・振動、景観を調査しています。

今後、これらの調査結果をもとに事業による影響を予測し、多様な動植物の生息・生育環境を保全・創出するための環境保全対策を検討していくとともに、必要なモニタリング調査を継続して行っていきます。



ほ乳類の調査風景

こんにちは！ の 南摩仲間たち



上：ヤマアカガエル
背側線が目の後ろで折れ曲がる



右：ニホンアカガエル
背側線がまっすぐ

その
ヤマアカガエル 無尾目(カエル目)アカガエル科
Rana ornativentris

栃木県内では、平野部から山地にかけて広範に生息している黒褐色から赤茶色の中型のカエルです。国内では本州、四国、九州、佐渡島に分布しています。大きさはオスが40～60mm、メスは40～80mmで、日当たりの良い浅い止水を好みます。

主に昆虫やクモ、ミミズを餌とし、キャララ、キャララと特徴的な声で鳴きますが、警戒心が強く、人が近づくと鳴くのをビタリと止めてしまい、泥中や落ち葉の下にすぐ隠れてしまうため、姿を見かけることは余り多くありません。

繁殖期には、池や沼、湿地、溪流の止水、水田などで1,000から1,900個の卵を産みつけます。産卵は、栃木県南部では1月下旬頃から始まりますが、北部では5月まで卵塊を確認することができます。非繁殖期には産卵地周辺の林の林床などで生活し、水田や溝の泥の中などで冬眠します。

ニホンアカガエルとよく似ていますが、背側線(背中にある線)が目の後ろ側で折れ曲がっていることで区別できます。

- 【参考文献】
- ・鹿沼市史叢書8 鹿沼の自然 動植物相等調査 (鹿沼市史編さん委員会編集)
 - ・2005レッドデータブックとちぎ (栃木県林務部自然環境課編集)
 - ・決定版日本の両生爬虫類 平凡社

人事異動

十月一日付で異動のありました職員を紹介します。

転入者 「よろしくお願ひいたします」(前任地)

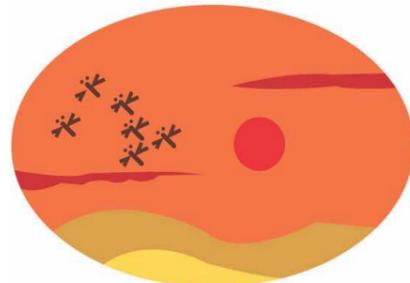
副所長 塚本 康二(長良川河口堰管理所)

第一用地課 野呂 佳臣(荒川ダム総合事業所)

工務課 日隈 晃輝(荒川ダム総合事業所)

転出者 「お世話になりました」(転出先)

副所長 太田 道男(本社人事部)



編集後記

秋晴れの空が心地よい季節となりました。朝夕はずいぶん冷え込むようになりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。秋が来たと思えばすぐに寒い冬がやってきます。皆様もお体にはくれぐれもお気を付けてください。

編集・発行所



独立行政法人 水資源機構
思川開発建設所
〒320-0065 宇都宮市駒生町中丸3368
Tel(028)622-8941 Fax(028)622-8945
ホームページ http://www.water.go.jp/kanto/omogawa/index.html

鹿沼事務所
〒322-0346 鹿沼市上南摩187-18
Tel(0289)77-3888 Fax(0289)77-3890

五霞町の川妻浄水場を ご紹介します

平成18年9月26日、利水者である五霞町の水道事業について勉強するため、浄水場を見学させて頂きました。五霞町は茨城県の西南端に位置し、四方を河川に囲まれた人口約1万人の町です。

見学させて頂いた川妻浄水場は、平成8年12月に竣工した浄水場で、現在は利根川表流水を取水して1日最大3,456m³の給水を行っています。



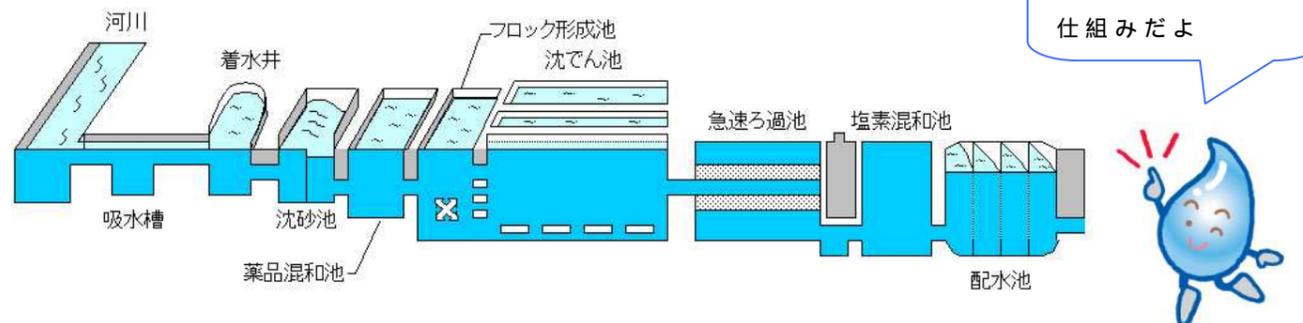
浄水を貯める配水池（川妻浄水場）

浄水場は、飲み水を作る工場のようなものです。川を流れている水はごみが混じっていてそのままでは飲むことができません。飲み水になる前の水を原水、飲めるようになった水を浄水と言います。浄水場では、原水に凝集剤を入れてごみや濁りを沈め、さらに消毒したりして飲み水（浄水）にします。このようにしてできた浄水は送水管を通して各家庭へと送られます。

人口1万人規模の自治体が単独で浄水場を持つことは珍しく、川妻浄水場もとてもコンパクトに各施設が配置されていました。

今回、浄水場を見学させていただき、改めて水を管理されるご苦労を知ることができました。また、現在、五霞町は思川開発事業を前提とした暫定水利権で取水している状況ですが、一刻も早く安定給水に移行できるよう、当機構も思川開発事業の早期完成めざし、努力して参ります。

- 着水井：原水・返送水の水位変動を安定させる。
- 沈砂池：比重の大きな砂、木片等を除去する。また、粉末活性炭、カセイソーダを注入する。
- 薬品混和池：前塩素を注入し、アンモニア、鉄、マンガン、藻を除去する。凝集剤としてPACを注入し、フラッシュミキサーにより攪拌混和する。
- フロク形成池：凝集した微小フロクをフロキュレーターにより攪拌し、大きなフロク(わたのようなもの)に成長させる。
- 沈でん池：浮遊物質、フロクの大部分を除去する。汚泥を排泥池に圧送する。トリハロメタンとPHコントロールの対応として中間塩素、後カセイソーダを注入し、清澄水とする。
- 急速ろ過池：濁質が除去された清澄水は、自動逆洗急速ろ過装置でろ過され、浄水となる。
- 塩素混和池：滅菌用の後塩素を注入し、安全な水道水になる。そして配水池に圧送する。
- 配水池・配水ポンプ：配水池は、4000m³を貯留する。配水ポンプ3台は、インバーター制御により給水区域に圧送する。



「水の週間」行事に参加して

前号の思川だよりでご紹介した「栃木県水の週間」行事のご報告をします。

「第28回全日本中学生水の作文コンクール栃木県審査会表彰式」では、県内応募総数680名の中から22名が表彰され、優秀賞を受賞した高根沢町立北高根沢中学校の加藤広佳さんが受賞者を代表して「市の堀用水の水」と題した作文を朗読しました。なお、加藤さんは、国の審査会でも入選するという快挙を納めています。また、講演会では、ダニエル・カール氏が「貴重な資源である水」と題して、山形弁を使ったユーモアたっぷりのお話をしていただき、観客の皆さんは熱心に聞いていました。

併せて、ロビーでは機構のパネル展示等も行いました。来場された皆さんが熱心にパネルをご覧になっていたのが印象的でした。

「水の週間」関連行事は毎年8月1日の「水の日」にちなんで各地で行われています。皆様も是非一度、足を運んでみてください。

「鹿沼ぶっつけ秋祭り」と 「かぬま産業交流フェア」

10月14日(土)、15日(日)に鹿沼市内で「鹿沼ぶっつけ秋祭り」及び「かぬま産業交流フェア」が開催されました。



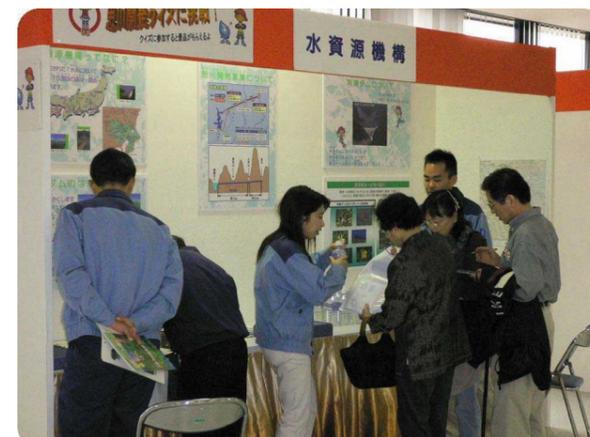
絢爛豪華な彫刻屋台

「鹿沼ぶっつけ秋祭り」は、国指定重要無形民族文化財にも指定されている「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」が主となるお祭りで、絢爛豪華な彫刻屋台の引き廻しは見応えたっぷりでした。



産業フェア開会式での鹿沼市長挨拶

また、同時に開催された「かぬま産業交流フェア」(主催：かぬま産業交流委員会)には、機構もブースを出展し、広報活動を行いました。両日も晴天ということもあり、鹿沼市内外から大勢の来客があり、機構のブースも大にぎわいでした。次回も、更に充実した広報に職員一同、努めて参りたいと思います。



パネルの内容に沿ったクイズを実施し、皆様にじっくり見ていただくことが出来ました